

~~~~~  
論 説  
~~~~~

グラビアアイドルと景気について¹⁾

友 原 章 典*

1. 国の健康診断

1-1. 景気分析とは

景気とは国の経済活動の状況のことで、私たちの健康みたいなものです。私たちは、体調がよいときもあれば、悪いときもあります。いつも絶好調な人はあまりいないでしょう。国の経済活動についても同じようなことが言えます。好況の時もあれば、不況の時もあります。こうした体調のバイオリズムに相当するものを景気循環といいます。

景気分析とは、景気について考えることです。大まかに言えば、国の経済活動がうまくいっているかどうかを調べることです。個人の体調を検査するには、健康診断をしますが、景気分析とは、国家レベルの健康診断みたいなものです。国の健康（つまり、経済状態）に関する（全体的な）指標として、GDP（国内総生産）がよく使われています。

では、景気分析は、どのようにして行えばよいのでしょうか。イメージがわくように、個人の体調の例から始めましょう。仮に、あなたは体の調子が悪くなっ

* Dept of Int'l Politics, Economics, and Communication, Aoyama Gakuin University, tomohara@sipeb.aoyama.ac.jp

1) トムソン・ロイターからの依頼で世界の大学ランキングの評価に協力する機会がありました。評価項目には、研究水準だけではなく、教育内容の項目もあります。本稿は、本学の講義でも使用されている経済学の講義ノートをベースに、経済学のバックグラウンドがない人にも興味を持てるようにまとめたものです。本学の教育内容が評価される一助になればと思っています。執筆にあたっては、日本のグラビアアイドルに関する情報収集を手伝っていただいた張欣さんと国際政治経済学部の学生のみなさんに感謝を致します。

て、大学病院に行つたとします。たとえば、おなかの調子が悪いときに、誰に診察してもらうでしょう？ とりあえず、内科を受診して、さらに、専門の消化器系の科で診察してもらふことと思います。おなかの調子が悪いときに、皮膚科を受診する人は、あまりいないでしょう。体のどこが悪いかによって、受診する科が違います。

景気を考えるときにも、同じ様なことがいえます。たとえば、GDPが伸び悩み、減つてしまつたりしたとしましょう。どうして景気が悪いのかを考えるためには、人体を組織している器官のように、経済を構成している個別の経済主体を見ていくことになります。

標準的な経済学の教科書では、通常、家計、企業、政府、海外の4つの経済主体に分けられています。みなさんの教科書も似たような章立てになっているはずです。また、三面等価で習つたように、経済活動は、生産、分配、支出のように異なる側面からとらえることができます。本節では、まず、支出の側面から、景気を考えていきましょう。

1-2. 消費者心理²⁾

国の健康診断をするにあたり、消費に注目してみましょう。消費は、日本のGDPの約60%という大きな割合を占めています。アメリカでは、消費がGDPに占める割合はもっと高くなります。消費は、景気を考える上で、とても重要な要素であることがお分かりになると思います。

では、景気を考える上で、消費は、どのような役割を担っているのでしょうか。

たとえば、健康診断をするのは、はやめに病気を見つけて治したいという早期発見・早期治療があると思います。同じように、景気についても、景気が悪くなる（または加熱しすぎる）前に、景気動向を予想し、対処したいと思うのは当然です。

では、消費動向を調べることで、景気の先行きが予測できるかということ、必ずしもうまくはいきません。実は、消費は、景気に遅れて動く指標（遅行指標）

2) 1-1, 1-2は内田・友原(2011)第2章5節, 6節の原稿に若干の手直しを加えたもの。

グラビアアイドルと景気について

であるとされているからです。しかし、消費者心理は、景気より3か月から6か月程度はやく反応する、景気の先行指標として知られています。

消費者心理に関する経済指標として、日本の場合、内閣府が発表している消費者態度指数があります。アメリカではコンフェレンス・ボード (Conference Board: 全米産業審議会) が発表している消費者信頼指数 (Consumer Confidence Survey) や、ミシガン大学が発表している消費者期待度指数 (Consumer Expectations) があります。

新聞で頻繁に目にする消費者心理の記事ですが、最近、景気予測の有用性が低下したとも言われています。近年のアメリカにおける景気転換点を予想する際に、消費者心理はせいぜい1ヶ月程度しか先行して反応していないという報告もあるのです。

1-3. 離婚や自殺と景気

では、何か良い (心理的な) 指標が、他にないのでしょうか？ これまでは、家計を支出の観点から消費者としてみてきましたが、ここでは、分配の観点から労働者としてとらえましょう。

たとえば、日本における離婚が、景気の先行指標であるという見解があります。1980年代以降、離婚の減少 (増加) が、景気回復 (後退) に、1~2年先行しているということです。

少し丁寧に説明すると、各年度の離婚件数と実質 GDP が、それぞれの長期的な増加傾向から乖離している程度を指標として、景気変動と離婚件数に相関がみられることが示されています。ここでの景気は、前年度と比べた増減率ではありません。

長期的な傾向からの乖離でみた景気変動と離婚件数が相関については、女性の動物的なカンが景気を予知し、経済的な補償に有利な時期に離婚するのではないかと考えられます。しかし、その相関の理由についてはわからないとされています。

また、景気と自殺者数についても、1980年代以降、ある程度の相関がみられ

るといわれています。雇用は一般的に景気の運行指標とされています（補論参照）が、景気の変動に少し遅れて失業者数が増加し、失業者数の増加から1年遅れて自殺者数が増加する傾向があります。

この分析においても、各年度の自殺者数と実質GDPが、それぞれの長期的な増加傾向から乖離している程度を指標として、景気と自殺者数の関係を見ています。ただ、景気と自殺者数の関係については、景気と離婚件数ほどには、きれいな相関がみられないようです。

2. プレイボーイの分析

グラビアアイドルが景気と関係あるという話があります。1960年から2000年までのプレイボーイにおけるプレイメイツ・オブ・ザ・イヤーの顔や身体の特徴が、アメリカの社会・経済的要因とどのような関係にあるかを調べた、心理学の分野における研究です（Pettijohn II and Jungeberg, 2004）。

分析によると、社会・経済的環境が厳しい時には、目が小さく、背が高く、胸が大きくなく（smaller bust-to-waist ratios）、腰がくびれておらず（larger waist-to-hip ratios）、年上の女性が選ばれていることがわかりました。一方、社会・経済的環境がよい時には、目が大きく、曲線美に代表されるグラマーで、若く、背が低い女性が好まれると報告されています。

この結果は、男性がストレスや不安を感じているときには、成熟した女性のほうが、男性の不安やストレスを取り除いてくれるからではないかと解釈されています。また、厳しい環境下では、（後述する）生殖による適性よりも、経済基盤の確立のほうが優先されるからではないかとも言われています。

人気のあるアメリカの映画女優についても、同じような傾向が当てはまるという研究があります。社会・経済的環境が厳しい時には、社会・経済的環境がよい時と比べて、目が小さく、あごが大きく、細い顔の女優が好まれることを示しています。面白いことに、こうした傾向は映画俳優にはあてはまらず、俳優の外見に関する好みは、女優の外見に関する好みとは同じでないこととなります。

これらの分析における厳しい社会・経済的環境 (the General Hard Times Measure) は、景気や女性の社会進出、生殖に対する価値観などの合成指標ではかられます。具体的には、アメリカの失業率、可処分所得や消費者物価指数の変化、死亡率、出生率、結婚率、離婚率、自殺率、ならびに殺人率が含まれています。

外的環境の変化に応じて、顔の好みなどの社会選好が変わることを、ベティジョンとテッサーは環境保障仮説 (the Environmental Security Hypothesis) と呼んでいます。社会・経済的環境が厳しい時には、(自己を保全するために)、成熟した性質を好む傾向にあるというものです。

こうした考え方自体は新しいものではなく、1980年代頃から研究されており、外部環境が厳しい時には、そうでないときと比べて、大人びた顔が好まれやすいという、進化論や社会環境論 (social ecological theory) に基づいています。

進化論的な伴侶選択論 (evolutionary mate selection theory) では、生殖を成功させるように伴侶を選択しますが、男性が女性を生殖に適しているかどうか判断する手がかりとして、外見である身体的特徴が大変重要な役割を果たすとされています。

多くの研究が、女性の魅力を決めるものとして、文化にかかわらず、未成熟な(もしくは幼い: neotenus) 顔の特徴を指摘しており、こうした好みの傾向は、進化と関係があるのではないかもいわれています。

幼な顔の特徴は、大きな目、小さな鼻やあご、まるい頬です。ベビーフェイスは、大人びた顔立ちより、温厚、親切、繊細、正直、信頼できる、社交的にみられる傾向があります。一方、大人びた顔の特徴は、小さな目、大きな鼻やあご、細い顔や頬などです。大人びた顔は、ベビーフェイスにくらべて、力強く、支配的、競争的、独立した感じに受取られます。

女性の魅力を定義するとき、顔以外にも身体的特徴があります。たとえば、腰がくびれていること (smaller waist-to-hip ratios) と胸が大きいこと (larger bust-to-waist ratios) は、曲線美と関連しています。研究によると、女性のポディラインが曲線的であればあるほど、男性に魅力的だと感じるとされています。

しかし、女性の大学進学率の上昇や職場進出によって、人気のある女性誌でいわれる女性の魅力は、曲線美を強調しなくなったこともわかっています。これは、女性が、身体的な特徴によって、伴侶選択の戦略を変えている可能性をしめしています。男性にとって魅力的とされるグラマーな女性は、結婚によって子育てのための経済的基盤を獲得しますが、そうでない女性は、自分で働き、経済的な自立をするのです。

女性による女性の魅力観と男性による女性の魅力観が、時代とともにどう変わったかを調べた研究もあります。プレイボーイのモデルやミスアメリカの受賞者でみた男性による女性の魅力観は、Vogue でみた女性による女性の魅力観と比べると、変わっていないことがわかっています。

最後に、ここでご紹介したプレイメイツを使った研究では、女優の場合と違って、あごや顔の細さについては、厳しい社会・経済的環境とは相関がみられませんでした。顔立ちが大事な女優に対し、ヌードモデルの場合には、顔立ちよりも、身体的な魅力のほうが重要だからではないかと説明されています。

この研究をご紹介した背景には、景気予測に役に立つ指標だろうかという疑問がありました。厳しい社会・経済的環境の指標の中身をみってみると、離婚のように景気の先行指数と失業や自殺などのように景気の遅行指数が含まれており、景気予測には、必ずしも有用とはいえないようです（離婚と自殺が景気とどのような関係にあるかをご紹介したのは、ここでの議論の伏線になっています）。

また、プレイメイツの研究は面白い結果ですが、分析手法自体は大変シンプルなものです。たとえば、相関係数が0.3強程度あれば、相関関係が認められるとされています。

3. 日本のグラビアアイドルと景気

海外の研究は、日本においてもあてはまるのでしょうか？ 日本のグラビアアイドルのデータを使って、景気との間に何らかの関係があるかを調べてみました。

使用したデータは、グラビアアイドル研究所のウェブに掲載されている1997

グラビアアイドルと景気について

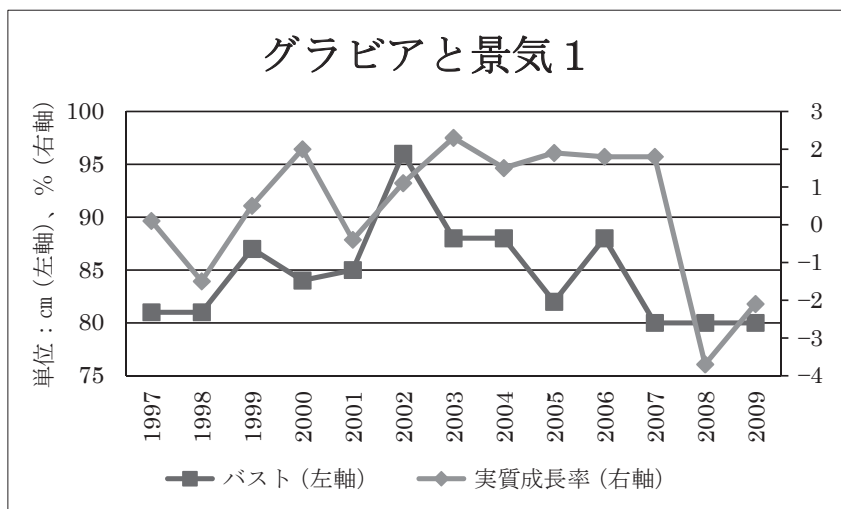
年から2011年までのグラビアアイドル第1位です。グラビアアイドル研究所では、週刊誌(96年から03年までは、週刊プレイボーイ、ヤングマガジン、ヤングサンデー、ヤングジャンプ、ビックコミックスピリッツの5誌、それ以降は12誌を調査対象として使用)への掲載に基づき、グラビアアイドルの週刊誌での露出度に関して、独自の得点化を行っています。

また、アイドルの身長や3サイズなどは、アイドルプロフィールおよびウィキペディアのウェブに掲載されているデータを使用しました。

ここでは、実質経済成長率とグラビアアイドルの身体的特徴の関係を調べました。

図表1は、ナンバーワングラビアアイドルのバストサイズと成長率の推移を描いたものです。たとえば、2000年にバストサイズが谷になって1年後、経済成長率も谷になっています。同様に、2002年にバストサイズが山になって1年後、経済成長率も山になっています。2007年にバストサイズが小さくなった後、2008年に成長率もプラスからマイナスへ転換しています。

バストサイズの変化は、成長率の転換期に1年先行しているようにも見えます。データ数が少ないので、きちんとした分析ができないのですが、とりあえ

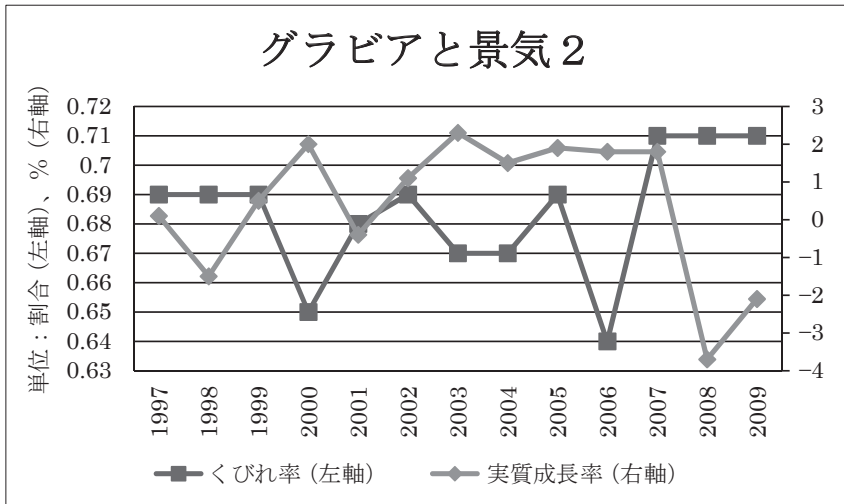


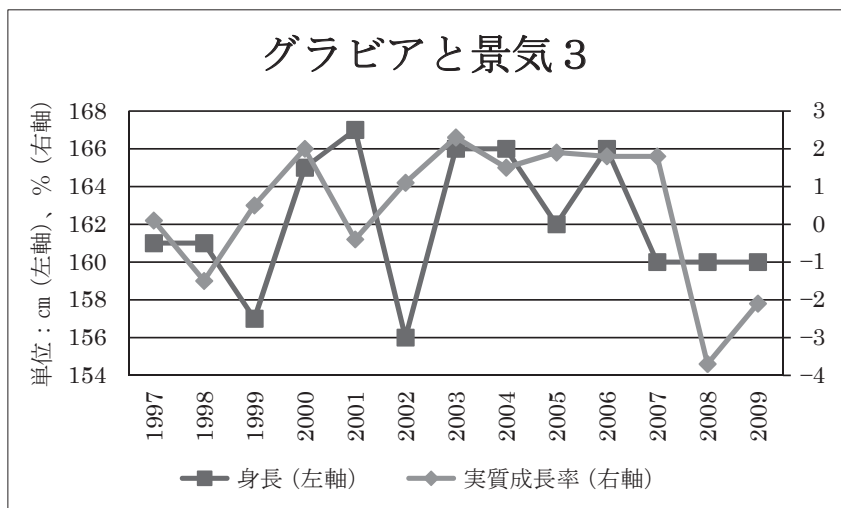
ず、バストサイズを1年後方にずらしたものと実質成長率の間の相関係数を見てみました。すると、0.73という高い相関を示していることがわかりました。バストの大きいグラビアの露出が増えてきたら、景気回復が近い可能性が高いようです。

ちなみに、2010年、2011年の第一位はAKB48となっており、個人でないためこの分析には含まれていませんが、みなさんは、2012年の景気を見ていて、バストが景気の先行指標という見解をどのように評価されるでしょうか？

データの制約もあり、アメリカにおける先行研究の復元はできなかったのですが、くびれ率(ウエストサイズをヒップサイズで割ったもの)や身長についても調べてみました。

くびれ率が低いということは、グラマーであることを意味するので、バストの時とは、図表の見方が異なります。2007年にくびれ率が大きい値を示した後、2008年に成長率がマイナス転換したりしていますが、他の年度ではバストの時ほど明瞭な関係は見えません。くびれ率を1年後方にずらしたものと実質成長率の間の相関係数を見てみると、 -0.29 とさほど強い関係はみられませんでした。





身長も1年後方にずらしたものと実質成長率の間の相関係数を見てみましたが、相関係数が0.08と、ほとんど関係がありませんでした。ちなみに、身長と実質成長率の間の相関係数を見てみると、0.33となっており、身長は、あえていうなら一致指数というところでしょうか。

なお、ここでの分析は、先ほどご紹介した離婚件数や自殺数の分析とは異なり、通常使われるような各年度における対前年比の経済成長率を使っています。離婚件数や自殺数の分析では、景気という項目で、増加傾向にある長期傾向線からの乖離をみていたので、仮に対前年比の経済成長率がプラスでも、トレンドから予想される成長率を上回らないと、景気が上向いていると取り扱われないことに注意が必要です。

さらに、1992年から2002年までのフジテレビ・ビジュアルクイーン・オブ・ザ・イヤーのデータを使用して同じような分析をしましたが、こちらの方はあまり良い結果が出ませんでした。ちょうど失われた10年という特別な期間に相当しているからかもしれませんし、特定のコンテストなので主催者の好みや事情みたいなものが現れているからかもしれません。

ちなみに、くびれ率と実質成長率を見てみると、くびれ率が実質成長率の1

年運行指数（相関係数が0.47）、バストに至っては2年運行指数（相関係数が0.50）という結果が出ました。雑誌媒体で発掘されたグラビアアイドルが、時間をおいて、テレビへの露出を増やしていくのかとも思いましたが、そうでもないようです。

2002年に週刊誌グラビア第1位の小向美奈子は、2001年のフジテレビ・ビジュアルクイーン・オブ・ザ・イヤーに含まれていますし、2000年に週刊誌グラビア第1位の真鍋かおりは、同年の日テレジェニックです。

また、消費者心理の観点からは、グラビアアイドルだけではなく、ファッションと景気の関係についても面白い見解が言われています。たとえば、景気が良い時にはネクタイの幅が広くなったり、女性のドレスや化粧の色使いが明るくなったりするのに対し、景気が悪くなると、ネクタイの幅が狭くなったり、女性のドレスや化粧の色使いがおとなしくなるといわれています。女性の髪の長さや景気についても、景気が低迷しているときには、ショートがはやる傾向があるといわれています。

プレイメートの例のように、長期間にわたる適切なデータがあれば、こうした見解を検証して、（景気の先行指標かどうかなど）学術的に面白い研究ができるかもしれません。

4. 国民総所得が提唱されるわけ³⁾

ここまでは景気ということで、GDPのお話が長く続きましたが、これからもGDPがもっともよくつかわれる指標であり続けるかはわかりません。たとえば、ここ10年くらいの話ですが、国内総生産（GDP: Gross Domestic Product）にかえて、国民総所得（GNI: Gross National Income）を経済指標として注目しようという動きがあります。GNIとは、GDPに海外からの所得の純受取（＝海外から受取る利子・配当等－海外に支払う利子・配当等）を加えたものです。

GDPは、国内の経済活動を生産や雇用の観点からみる場合、一方、GNIは、

3) 4と5は、友原（2013）の原稿に図の追加や加筆・削除などされたもの。

ある国の経済活動を所得の観点からみる場合に、それぞれ適しているとされます。ここでは結論を先取りしましたが、その理由については、後述の「GNI, GNP と GDP の関係」における GNP から GDP へ移行した経緯のところなどを参照してください。

では、どうして国民総所得が提唱されるようになったのでしょうか？ その背景には、①日本の対外純資産の拡大に伴い、海外からの所得の純受取が年々拡大している、②少子高齢化の日本では、労働力人口の減少などの制約により、GDP ではかった経済成長が見込めないことがあります。

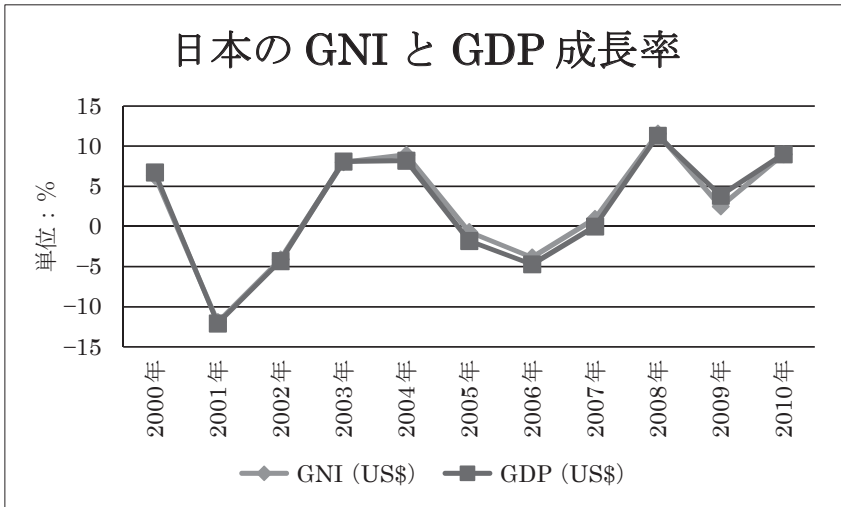
日本国内における経済活動が伸び悩めば（つまり、新たな付加価値を生むことができなくなれば）、三面等価の原則により、私たちの分け前である国内総所得（GDI: Gross Domestic Income）（この節で説明した国民総所得（GNI）とは違います）の成長も見込めなくなります。

個人レベルでたとえていうと、フローである給与がほとんど増えないので、生活水準が改善されないようなものです。しかし、もし、これまでの生活できちんとした資産（ストック）を形成していればどうでしょう？ 毎年の生活水準は、貯蓄からの利子や不動産収入・配当などによって、改善していく可能性があります。

国の場合も同じで、対外純資産があることにより、海外から利子や配当などの所得を受取ることができます。こうした所得を加えた GNI が成長していれば、国としては（経済的に）豊かになっていると解釈することができます。現在の日本では、海外からの所得の純受取の額がかなりあるので、それも含めて国の経済活動を見ようというのが、GNI を提唱する基本的な考え方です。

なかには、GDP ではかった経済成長が見込めないからといって、恣意的に GNI へ乗り換えて、経済成長の見栄えをよくしようとしているだけではないかという意見もあります。たかが数字とはいえ、経済成長率（や失業率など）の経済指標は、政権の維持に大きな影響をあたえるからです。ただ、ここ 10 年の成長率を見る限り、両者の間に大きな差異は認められません。

あれ？ 注意深い読者のみなさんは気づかれましたでしょうか？ 上記のグラ



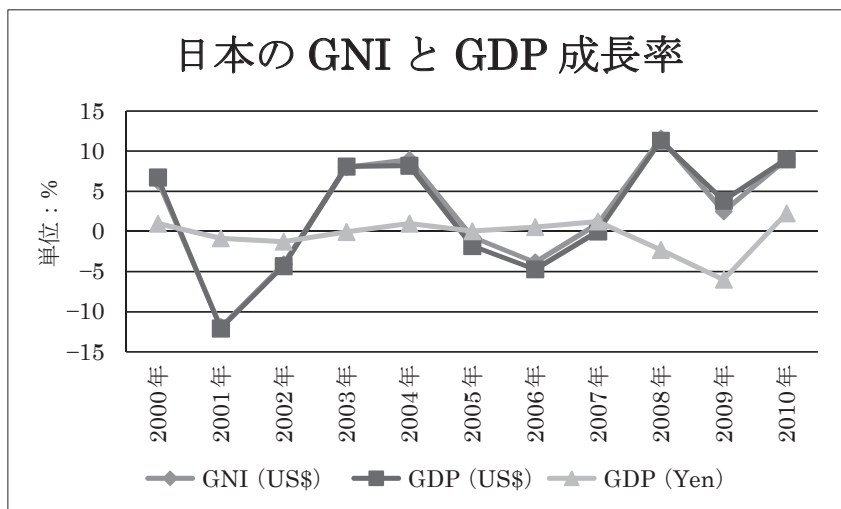
Data sources: 名目 GDP は IMF World Economic Outlook Database, 名目 GNI は「社会保障統計年報」（2012年3月刊行）および2010年分のみ「世界の統計2012」

フに何かおかしいところはないでしょうか？ そうです。金融危機もど吹く風。2009年における日本の名目 GDP 成長率は4%，2010年における成長率も9% となっています。こうした数値は、皆さんがニュースで聞くものとは違いますし、前出の図表でお示した GDP 成長率とも違ってきます。

実は、すぐ上の図表における成長率は、アメリカドルに換算された名目 GDP を使って経済成長率を計算したものです。一方、本章における前出の図表の成長率は、日本円の名目 GDP を使って経済成長率を計算したものです。ドル建ての GDP を考えるときには、為替レートの影響が、無視できないことがわかります。

日本円の名目 GDP を使って計算した経済成長率を追加したものが、下の図になります。GDP 成長率の推移は、私たちがよく知っている数値になりました。

さらに、GNI も日本円で表示されているデータを使用して、GDP と GNI の関係を比べたものが、下図になります。下図では、上図とは異なるデータソースを使用しているため、上図と下図では数値に若干の違いがあります。このよ



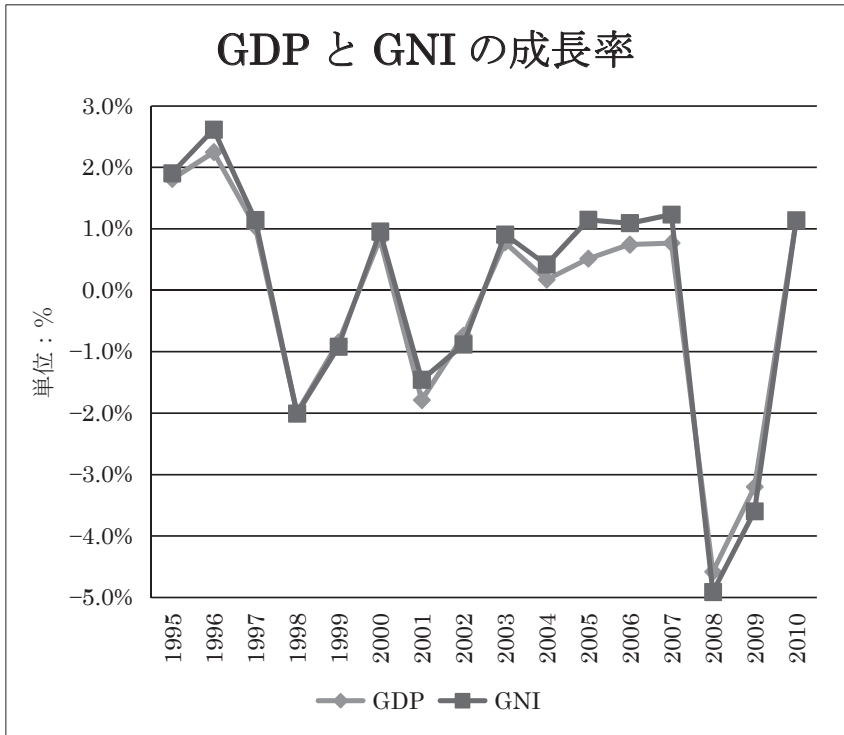
Data sources: 名目 GDP は IMF World Economic Outlook Database, 名目 GNI は「社会保障統計年報」(2012年3月刊行)および2010年分のみ「世界の統計2012」

うにデータソースによっては、算出方法が異なっていたりして、数値が同じでないことがあります。ここでは、2つの経済指標の推移を比べるために、2つの経済指標を同時に含むデータソースを使用していますので、算出方法の違いなどの問題は生じません。

この図表からわかることは、たしかに、ほとんどの年において、名目 GNI ではかった成長率のほうが、名目 GDP による成長率を上回っており、GNI で経済活動を見たほうが見栄えがよさそうです。ただし、成長率がマイナスの年度においては、逆の現象がみられ、名目 GNI 成長率のほうが、名目 GDP 成長率よりも、変動が激しいこともわかります。今後とも、GNI ではかった成長率が、GDP による成長率を上回るどうかはわかりません。

5. GNI, GDP と GNP の関係

注目を集める GNI についてももう少し見ていきましょう。そもそも GNI は、GDP がよく使われるようになる前に主流であった GNP とほぼ同じ指標とされ



	1995	1996	1997	1998	1999
GDP	1.8%	2.2%	1.0%	-2.0%	-0.8%
GNI	1.9%	2.6%	1.1%	-2.0%	-0.9%
	2000	2001	2002	2003	2004
GDP	0.8%	-1.8%	-0.7%	0.8%	0.2%
GNI	1.0%	-1.5%	-0.9%	0.9%	0.4%
	2005	2006	2007	2008	2009
GDP	0.5%	0.7%	0.8%	-4.6%	-3.2%
GNI	1.1%	1.1%	1.2%	-4.9%	-3.6%
	2010				
GDP	1.13%				
GNI	1.14%				

Data source: 内閣府「国民経済計算」

ています。なぜ、一度使われなくなった指標が、また注目を集めたりするのでしょうか？ GNI, GDP 並びに GNP の関係を、経済指標の利用の推移とも併せてみてみましょう。

少し勉強をしていらっしゃる（もしくは昔経済学を勉強した）方でしたら、そもそも、国の経済活動を表す指標は、GNP（国民総生産：Gross National Product）が使われていたご記憶があるのではないのでしょうか？ GNP とは、一定期間に、ある国民によって、新たに生産した財やサービスの付加価値の合計のことです。この GNP にとってかわったのが GDP です。

では、当時、GNP から GDP に変わった経緯はどのようなものだったのでしょうか？

文字通り、GNP は国民、GDP は国内目線の指標です。実は、国民と国内が、ほとんど同じような意味合いであった時代には、どちらを使うかはさほど問題ではありませんでした。日本人が、日本にある日本企業で生産活動に従事していたようなときです。

しかし、日本企業による海外進出が盛んになり、海外での生産が増えると話が変わってきました。仮に GNP が増えても、そのすべてが国内における経済活動の結果ではありません。なぜなら、GNP には、海外における日本企業の経済活動が含まれているからです。ちなみに、「国民」の概念には、海外に居住する人や海外で活動する日本企業を含みます。このため、国内では GNP ではかった経済成長の成果を必ずしも実感できませんでした。企業の海外進出に伴い、国内という概念の重要性が認識されるようになったのです。

同じような認識が、出稼ぎ労働の多い国を中心に世界でも高まりました。周辺諸国に多くの出稼ぎ労働者を送り込んでいる国では GNP が増えますが、その国の国内では、GNP ではかった経済成長の成果を実感できません。このように、労働移動の国際化も、国民と国内の概念の区別を重視する流れと関係があります。

こうしてみると、客観的な経済活動の指標だからといって、すべてが客観的なわけではないような感じを受けます。どの経済指標を使うかという、あ

る程度、主観的な価値判断を含む余地があるからです。こうした論点は、教科書や論説などでは明示的に記述されていないかもしれませんが、豊かさについての基準を考える場合には、大事な点の1つでしょう。

最後に、GNI、GNPとGDPの関係を、参考までにまとめておきましょう。名目GNPと名目GNIは同じになりますが、実質GNIは、名目GNPに、輸出入価格の変化によって生じる実質的な所得の変化である交易利得を、調整したものになっています。

➤ 名目

名目GNP = 名目GDP + 海外からの所得の純受取 = 名目GNI

名目GDI = 名目GDP

➤ 実質

実質GNP = 実質GDP + 海外からの所得の純受取 (実質)

実質GNI = 実質GDP + 交易利得 + 海外からの所得の純受取 (実質)

実質GDI = 実質GDP + 交易利得

$$\text{➤ 交易条件指数} = \frac{\text{輸出デフレーター}}{\text{輸入デフレーター}} \times 100$$

実質GDIに表われる交易利得については少し説明があるかもしれませんが、実質GDIは、居住者が国内における生産活動から得る実質的な購買力をあらわしています。交易利得は、購買力と関係があるのです。

交易利得を理解するために、まず、交易条件という概念を説明しましょう。交易条件とは、輸出価格を輸入価格で割ったものです。交易条件が変化すると、その国の購買力も変わってきます。

モノを買うにはお金が要ります。たとえば、日本がアメリカから輸入をするにもお金が必要です。ここで、輸出で稼いだお金を使って、輸入をおこなうとしましょう。もし、輸出している財・サービスの相対価格が上昇すると、その国の購買力があがる（もう少し正確に言うと、いままでと同じ輸出量でも、輸

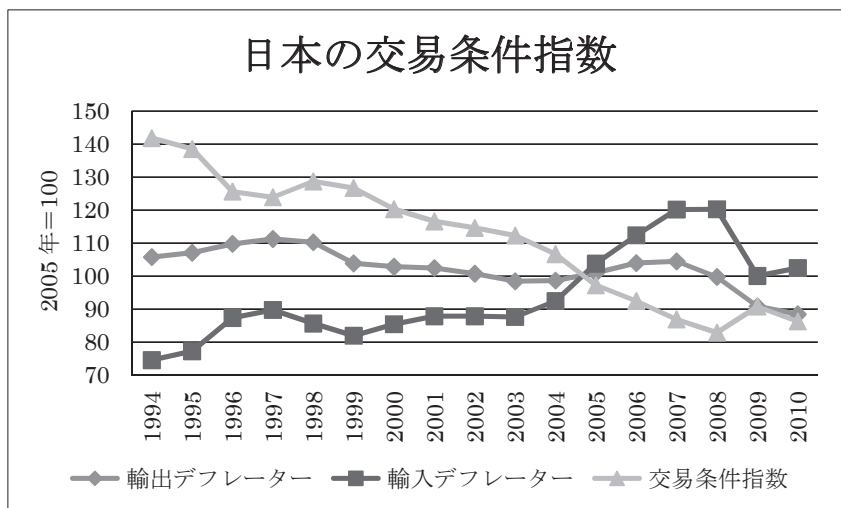
グラビアアイドルと景気について

出価格が上がった分、より多くのお金が稼げるので、今までよりも多くの輸入(量)ができる」という意味で、お金持ちになります。変な考え方だと思われるかもしれませんが、比較の基準点が、もともとの生産量(=輸出量)になっています。実質という概念は、物価を調整する(価格で割る)という意味で、数量ベースの議論ととらえられます。このため、海外との取引においても、数量面の変化をみるのです。

別の考え方もできます。いままでと同じ輸出量と同じ輸入量であれば、輸入によって海外に支払う額よりも、輸出によって海外から受取る額のほうが大きくなり、(基準年と比べて、実質的に)所得が国内に流入しているにとらえるのです。

いずれにしても、こうした取引による利得を調整したものが、交易利得です。つまり、交易利得とは、交易条件の改善による、海外から国内への(基準年と比べて)実質的な所得流入分のことです。反対は交易損失といいます。

ここで、交易条件指数という概念を導入して、もう少し議論を発展させましょ



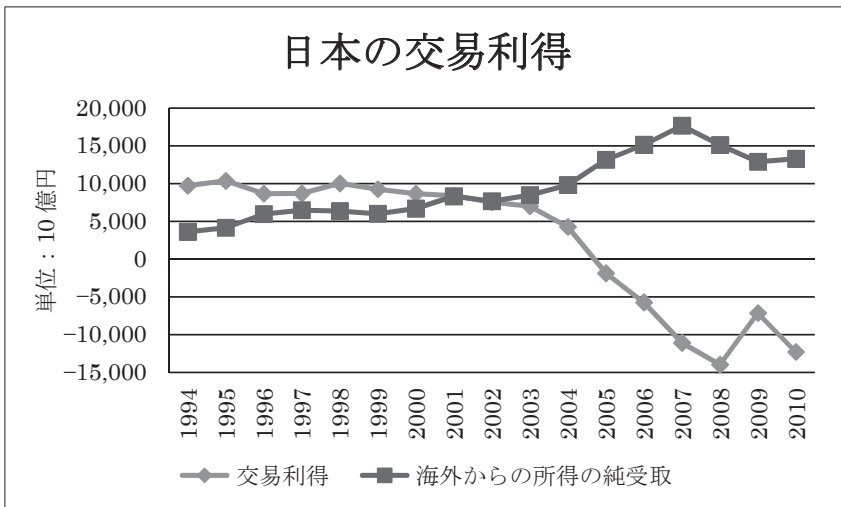
Data source: 内閣府「国民経済計算」

う。交易条件指数とは、輸出価格指数（輸出デフレーター）を輸入価格指数（輸入デフレーター）で割ったものです。

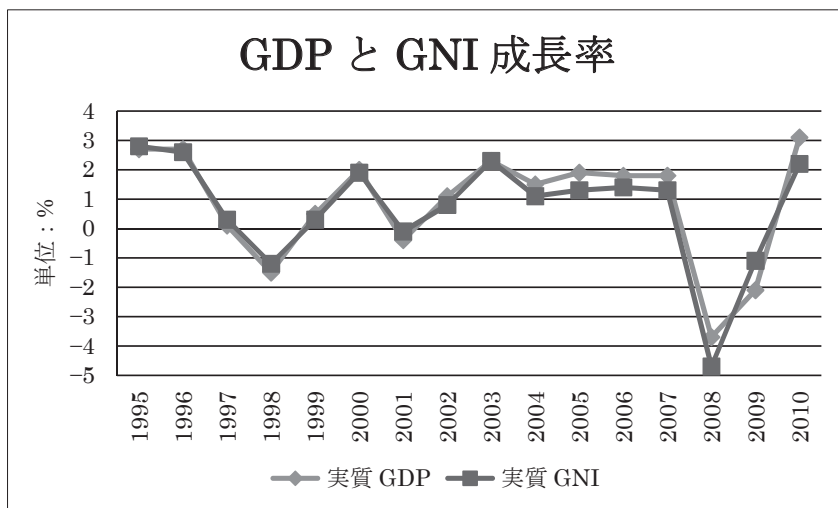
ここ十年における日本の交易条件指数をみると、低下傾向にあることがわかります。これは、輸入している原油などの原材料の価格が上昇しているにもかかわらず、世界的な価格競争に直面している輸出品の価格が、伸び悩んでいることが一因です。日本の輸出品の価格支配力は低く、輸入価格の値上がりを、輸出価格に転嫁できていないためとされています。このため、2000年代の日本では、所得が海外に流出している交易損失の状態となっています（2005年基準）。

GNIがGDPにとって代わるかについて、実質GNIと実質GDPの関係を見ながら考えてみましょう。先ほどの図表では、名目GNI成長率が、名目GDP成長率を上回っている年度を多く観察しました。しかし、交易利得が減少していたり、交易損失が増加していたりする場合にも、実質GNI成長率は実質GDP成長率を上回っているのでしょうか？

実質GNIは、実質GDP + 交易利得 + 海外からの所得の純受取（実質）とし



Data source: 内閣府「国民経済計算」（平成17暦年連鎖価格）



Data source: 内閣府「国民経済計算」(平成 17 暦年連鎖価格)

てあらわされますので、交易利得の減少や交易損失の増加は、実質 GNI 成長率を押し下げます。仮に、海外からの所得の純受取(実質)が増えても、交易利得の減少や交易損失の増加による影響が上回れば、実質 GDP 成長率のほうが、実質 GNI 成長率より大きくなることもあります。

たとえば、2000 年代の日本では、海外からの所得の純受取(実質)が増えたにもかかわらず、2001 年と 2009 年を除いたすべての年度で、実質 GDP 成長率のほうが、実質 GNI 成長率より大きくなっています。名目 GNI 成長率が名目 GDP 成長率を上回っていても、必ずしも実質 GNI 成長率が、実質 GDP 成長率よりたかいたとは言えなくなる場合があるのです。実質でみると、GNI の利用が政権の安定・維持に役立つとはいえないそうです。

まとめ

【離婚と景気】

日本における離婚件数が、景気の先行指標であるという見解がある。

【グラビアと景気】

社会・経済的環境が厳しい時には、大人びた（目が小さく、背が高く、胸が大きくなく、腰がくびれておらず、年上な）女性が好まれる。

社会・経済的環境がよい時には、かわいい（目が大きく、曲線美に代表されるグラマーで、若く、背が低い）女性が好まれる。

【価値観の性差】

男性による女性の魅力観は、女性による女性の魅力観と比べると、変わってない。

【日本のグラビアと景気】

日本では、バストの大きいグラビアの露出が増えてきたら、景気回復が近い可能性あり。

【GNI：国民総所得】 GDPに海外からの所得の純受取を加えたもの。

【GNI が提唱されるわけ】

- 対外純資産の拡大に伴う海外からの所得の純受取の増加
- 少子高齢化などに伴う制約により、経済成長が見込めない

【指標の適正性】

GDPは、国内の経済活動を生産や雇用の観点からみる場合。

GNIは、ある国の経済活動を所得の観点からみる場合。

【日本の成長率】

名目GNI成長率が、名目GDP成長率を上回ることがおおい。

名目GNI成長率は、名目GDP成長率よりも、変動が激しい傾向。

【GNP：国民総生産】 一定期間に、ある国民によって、

新たに生産した財やサービスの付加価値の合計

【国民と国内の区別の重要性】

企業による海外進出の拡大

出稼ぎ労働の増加

【GNP, GDP, GNI の関係】

- 名目

グラビアアイドルと景気について

名目 GNP = 名目 GDP + 海外からの所得の純受取 = 名目 GNI

名目 GDI = 名目 GDP

> 実質

実質 GNP = 実質 GDP + 海外からの所得の純受取 (実質)

実質 GNI = 実質 GDP + 交易利得 + 海外からの所得の純受取 (実質)

実質 GDI = 実質 GDP + 交易利得

【交易条件】

輸出価格を輸入価格で割ったもの。

輸出価格が相対的に上昇すると、その国の購買力があがる。

この場合、交易条件が改善したという。

【交易利得】

交易条件の改善による、海外から国内への (基準年と比べた)

実質的な所得流入分。反対は交易損失。

【交易条件指数】

$$\text{交易条件指数} = \frac{\text{輸出デフレーター}}{\text{輸入デフレーター}} \times 100$$

日本の交易条件指数をみると、低下傾向。

所得が海外に流出している交易損失の状態。

【実質成長率】

仮に、海外からの所得の純受取 (実質) が増えても、交易利得の減少や交易損失の増加による影響が上回れば、実質 GDP 成長率のほうが、実質 GNI 成長率より大きくなる。

補論 1

雇用と景気⁴⁾

雇用の安定は重要な政策目標ですが、雇用に関する経済指標で、新聞でよく

4) 補論 1 は内田・友原 (2011) 第 2 章 10 節の原稿に若干の手直しを加えたもの。

みかけるもの1つに、完全失業率があります。完全失業率とは、働きたくても、働けない人の割合のことで、正式には、働く意思はあっても仕事のない人たちの数である完全失業者数を、働く意思のある人たちの数である労働力人口で割ったものです。

では、完全失業率は、景気の先行きを知る上で、役に立つのでしょうか？一般的に、雇用に関する指標は、消費に関する指標と同じように、景気の遅行指標であることが知られています。

なぜでしょうか？ その理由は、雇用調整のメカニズムを理解するとわかります。そこで、どのように雇用が調整をするのかを、景気の循環と合わせて考えていきましょう。

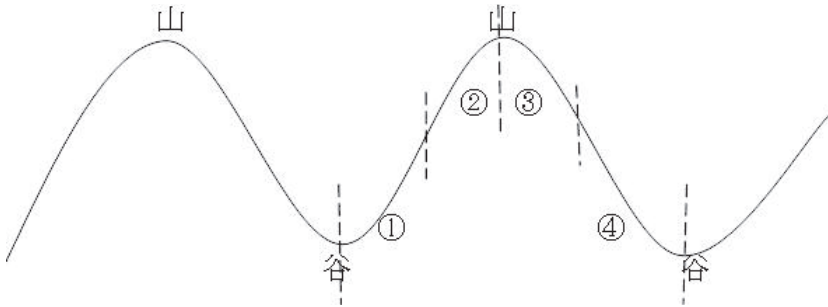
景気にはよいときと悪いときがあり、景気がものすごく悪いときは「谷」、ものすごくよいときは「山」と呼ばれます。景気循環は、①悪いときからよいとき(回復)、②調子が上向きするとき(好況)、③調子がさがり気味のとき(後退)、④調子が悪いとき(不況)、に分類できます。

景気が谷から回復しているときには、生産活動も活発になり、労働需要も増えていきます。ただ、企業はすぐに雇用を増やしません。なぜでしょう？たとえば、みなさんが責任者である工場で、急に受注が増えたとします。みなさんは、現在働いているスタッフにもっとがんばってもらい、つまり、彼らの残業時間を増やすのではないのでしょうか。一般的に、労働需要が増えたときには、残業のように調整費用のかからないものから採用されます。

さらに景気がよくなると、残業だけでは対応できなくなり、企業は人を雇い始めます。このとき、まず、パートを雇い、パートの増員で間に合わなくなると、正社員を雇うようになります。

採用活動は、面接によって応募者の資質を判断したり、新規採用者の訓練をしたりと、企業にとって費用のかかる作業です。ただ、パートの採用は、正社員に比べると、調整費用がかかりません。パート社員は、短期の雇用契約であったり、正社員に比べて責任のあるポストで仕事をするのが少なかったりするため、気軽に採用できるからです。

グラビアアイドルと景気について



一方、景気が頭打ちすると、上述したことと逆の労働調整が起こります。求人が停止され、残業がなくなります。そして、パートが解雇され、最終的には正社員も人員調整の対象となります。早期退職の勧告や新卒採用の抑制などによって、正社員数が削減されるような段階になると、失業者数が増大します。

雇用に関する経済指標が、景気の運行指標とされているのは、雇用調整メカニズムが、景気に反応して作用するためだと考えられています。

ちなみに、アメリカ経済で雇用関係の指標をみるときは、実体経済を反映する非農業部門雇用者数が注目されます。雇用者数は、景気後退の一致指標、景気回復の運行指標とされています。景気後退の一致指標であるのは、景気が悪くなると、レイオフが実施され、雇用者数が景気に敏感に反応するためです。また、景気が回復してから、失業率が下がり始めるまで、かなり時間がかかることも知られています。

雇用者数以外に、新規失業申請数も注目度の高い指標です。新規失業申請数が増加すると、景気後退の兆候であるとされています。

日本にも就業者数という指標がありますが、アメリカほど注目されていません。公表がおそく、短期的な景気循環をあまり反映しないからです。これは、日本企業が、解雇などの雇用調整に消極的であったことと関連があります。しかし、失われた20年を経て、日本の労働市場の在り方も変わってきています。日本の就業者数も、もっと注目されるような指標になるかもしれません。

最後に、消費者心理のように、雇用関係でも、景気予測に有用な指標はない

のでしょうか？ これには、新聞でよく目にする新規求人倍率が挙げられます。新規求人倍率とは、新規求職者数（労働供給）と新規求人数（労働需要）の比率です。新規求人倍率は、景気より少し早めに動く指標であると言われています。

補論 2

交易利得の計算の仕方⁵⁾

居住者が国内における生産活動から得る実質的な購買力を表す実質 GDI と生産量を表す実質 GDP との差が、交易利得となります：交易利得 = 実質 GDI - 実質 GDP。内需部分に関する限り、実質 GDP と実質 GDI は同じですので、交易利得は、純輸出の部分のみが関係します。

交易利得は、次の式に基づいて計算されます。

$$T = \frac{X - M}{P} - \left(\frac{X}{P_X} - \frac{M}{P_M} \right)$$

T: 交易利得, X: 名目輸出, M: 名目輸入, P_X : 輸出デフレーター, P_M : 輸入デフレーター, P: ニュメレールデフレーター, $\frac{X}{P_X}$: 実質輸出並びに $\frac{M}{P_M}$: 実質輸入です。最初の項である $\frac{X - M}{P}$ は、交易条件の変化を考慮した実質的な購買力、次の項である $\left(\frac{X}{P_X} - \frac{M}{P_M} \right)$ は、輸出入の数量差を表しています。

また、日本では、ニュメレールデフレーターとして、輸出および輸入の加重平均が使われています。

$$P = \frac{X + M}{\frac{X}{P_X} + \frac{M}{P_M}}$$

たとえば、基準年の輸出量が 60 単位、輸入量が 40 単位とします。当初、輸出価格、輸入価格とも 100 万円でした。5 年後、輸出価格は変わりませんが、輸入価格が 200 万円に増加しました。このとき、交易利得（損失）はいくらになるのでしょうか？

まず、名目輸出は 60 単位 × 100 万円、名目輸入は 40 単位 × 200 万円となり

5) まとめと補論 2 は、友原 (2013) より転載。転載許可済。

グラビアアイドルと景気について

ます。一方、実質輸出と実質輸入は、それぞれ 60 単位と 40 単位になるので、 P : ニュメレールデフレーターは、140 万円となります。この時、交易利得は、

$$\frac{60 \text{ 単位} \times 100 \text{ 万円} - 40 \text{ 単位} \times 200 \text{ 万円}}{140 \text{ 万円}} - (60 \text{ 単位} - 40 \text{ 単位}) \approx -34 \text{ 単位}$$

とマイナスになり、交易損失が生じています。相対的に輸入価格が上昇したため、交易条件が 34 単位分悪化したことがわかります。

ここで使用された輸出および輸入の加重平均以外にも、内需デフレーター、GDP デフレーター、輸入デフレーターなどを、ニュメレールデフレーターとして使用することができます。日本のように純輸出が黒字のときには、輸出および輸入の加重平均であるデフレーター、逆に、赤字の時には、内需デフレーターがよいという人もいます。

参考文献およびデータ

グラビアと景気については、

Pettijohn II, Terry F. and Brian J. Jungeberg, 2004, Playboy Playmate Curves: Changes in Facial and Body Feature Preferences across Social and Economic Conditions, *Personality and Social Psychology Bulletin*, 30 (9), 1186–1197.

景気と離婚件数や自殺者数の関係については、

社会事情データ図鑑、<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/2780.html> (関連記事が日経産業新聞 2006 年 5 月 16 日に掲載) および
<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/2740-1.html>
(2012 年 7 月ダウンロード)

日本のグラビアアイドルのデータは、

グラビアアイドル研究所、<http://homepage2.nifty.com/idol/trend/index.html>
および <http://homepage2.nifty.com/idol/report/index.html>
アイドルの 3 サイズなどは、アイドルプロフィール <http://www21.atwiki.jp/3size/>
およびウィキペディアのデータを利用。
(2012 年 6 月ダウンロード)

内田達也・友原章典 (編著) 『トビックスで学ぶ経済学』中央経済社 2011 年。
友原章典 『幸福の経済学』創成社 2013 年。